

令和7年度 第1回総合教育会議

日 時：令和7年4月20日（日）13時～

場 所：えびなこどもセンター 201 会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

（1） フルインクルーシブ教育の推進

（2） 積極的な学校再編計画の推進

4 閉会

令和 7 年度第 1 回

海老名市総合教育会議

令和 7 年 4 月 2 0 日（日）

@えびなこどもセンター 2 0 1 会議室

協議事項

- ◆フルインクルーシブ教育の推進について
- ◆積極的な学校再編計画の推進について

フルインクルーシブ教育の 推進について

海老名市 フルインクルーシブ教育

推進ビジョンと 5年間の取組計画

5年間の取組計画は、海老名市がフルインクルーシブ教育を進めるにあたり、「海老名市のすべてのこどもが、小学校、中学校でともに学べる環境の実現」に向けた計画です。

毎年見直しを図りながら、進めていきます。

海老名市教育委員会

令和7年3月

<推進ビジョン>

【目的】

海老名市のすべてのこどもが、小学校、中学校でともに学べる環境の実現

【めざす姿】

- ◇ 学級がすべてのこどものホームとなり、様々な学び方が保障され、協働的な学びが行われるなど、ひとりひとりのこどもに応じた、多様な学びが実践されている。
- ◇ 学校の包摂性が高まり、地域のすべてのこどもが、地域の学校であたり前に、安心して学ぶことができる環境が整っている。

【推進の柱として】

A みんなでめざす

- 対話や研修を重ね、インクルージョンの考え方について理解を深める。

B みんなで支える

- 個別の支援計画（えびなっこ支援シート）・教育支援コーディネーターの専任化・多様な人的支援などにより、校内支援体制の充実を図る。

C みんなで見直す

- 各学校がフルインクルーシブな視点により、学校づくりを進めるとともに、教育委員会として学級規模や学籍などの制度の見直しを図る。

D みんなで整える

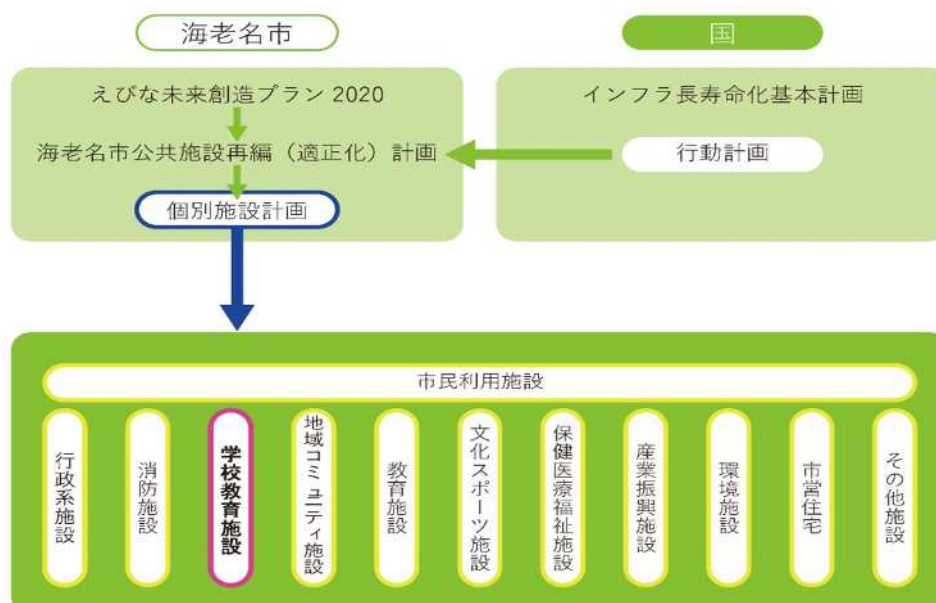
- 学校施設や教室環境の改善を図る。

促進し、名市を 実させ るに ます。	②	研修会の開催	教職員研修会、市民学習会の実施 今後の研修会のあり方についての検討	教職員研修会、市民学習会の継続・充実	こどもに係るすべての人のイ 理解が深まっています。
	③	シンポジウムの開催	開催規模、スケジュール等の検討	県内・全国シンポジウムの実施	○市民会議が定期的に開催さ の取組が図られています。
	④	市民会議の設置	会議設置に向けた計画の検討	市民との議論をさらに進めるために市民会議を 設置	○シンポジウムの開催などによ を広く発信しています。
	⑤	ホームページ開設とSNSでの発信	広報に係るホームページ開設等の検討	ホームページを開設し、対話の場や研修会の様 子等を広く発信	
支援体制 実させ て、研究 関係 いき	⑥	教育支援コーディネーター（※1）を中心とした 校内支援体制の充実（学校）	校内支援体制モデルの検討	校内支援体制モデルによる体制の整備とコーデ ィネーター研修の充実	○校内支援体制と様々なリソー 学級をホームとした教育活動 います。 ○教育支援委員会では、こども よい支援のあり方についての います。 ○保護者や地域の方々、特別 との連携による教育活動が進
	⑦	学級をホームにする研究（学校）	学級をホームにしていくための協議、検討	各学校での試行と取組の充実のための情報共有	
	⑧	個別の支援計画 「えびなっこ支援シート」の運用	作成の実施、検証	個別の支援計画による支援の実施	
	⑨	スペシャルサポートルームと心の教室（※2）の 活用推進	研究委託の検証	教室環境や支援体制の充実による活用の推進	
	⑩	就学相談のあり方	就学相談・教育支援委員会のあり方、時期の 検討	ひとりひとりのこどもに応じた支援について話し 合う就学相談・教育支援委員会のあり方の検討	
	⑪	特別支援学校との連携	センター的機能の活用、特別支援学校との連携 についての検討	特別支援学校との連携の充実と居住地交流の 拡大に向けた検討	
	⑫	支援ボランティアの配置	現行体制の見直しと新たな支援体制の検討	支援ボランティアの配置と研修の実施	
	⑬	関係機関・民間事業者との連携	対話の場において、フルインクルーシブ教育に ついての意見交換を実施	関係機関・民間事業者との連携強化	
学校 評価 す。 と模や 。	⑭	学校教育活動での取組	各学校における包摂的な学校づくりの実践	各学校における取組の継続と教育委員会として の支援の強化	○フルインクルーシブな視点に 進み、授業や学習評価のあり 進んでいます。 ○学級をホームにするために、 などの制度の見直しに取り組
	⑮	学級をホームにする研究（制度）	学籍のあり方についての協議	学級をホームにするための制度見直しについての 協議	
	⑯	授業・学習評価のあり方	授業や学習評価のあり方についての協議	フルインクルーシブな視点による授業と学習評価 のあり方についての研究	
	⑰	教育支援コーディネーターの専任化	教育支援コーディネーターの役割と専任化に ついての協議	教育支援コーディネーターの専任化を進め、その 活用についての研究	
	⑱	学級規模と人的配置の工夫改善	現状の課題についての協議・検討	制度の見直しと人的配置の工夫改善についての 研究・実施	
る	⑲	教室の環境整備	だれもが学びやすい教室環境についての協議	だれもが学びやすい教室の実現のための計画的 な環境整備	○校内のリソースの充実に向 進められています。
	⑳	学校の施設整備	学校のバリアフリー化に向けた検討	学校のバリアフリー化に向けた計画的な学校 施設整備の実施	

積極的な学校再編計画 の推進について

学校施設整備計画とは...

- 学校教育施設の整備方針や将来のあり方、方向性を示したもので、平成30年9月に策定
- 上位計画である「海老名市公共施設再編（適正化）計画」が令和6年2月に改定されたことに伴い、本計画も令和6年8月改定。



短期計画（向こう10年間）における方針の具体化

☆こどもの教育環境の充実につながる学校施設整備が確実に推進されるよう、今後の方向性として、方針を令和7年3月7日開催の定例教育委員会で決定。

【決定した施設整備等の方向性】

- 1 海老名中学校敷地移転
- 2 有馬小学校及び有馬中学校の施設統合を含めた効率的な学校運営
- 3 今泉小学校及び今泉中学校の児童・生徒数増加に伴う施設整備

方針1（海老名中学校）

- 施設整備にあたって直面している課題
 - ①校舎老朽化
 - ②学校敷地の形状（道路による敷地分断）
 - ③校舎敷地の大半が借地
- 学校周辺地域
海老名市役所周辺での新たな市街地形成が進行
- 短期計画における施設整備等の方向性
 - ①敷地を移転
 - ②移転先は、市役所周辺での新市街地形成に合わせ候補地を検討
- 将来に向けて
生徒数減少に対応した海西中学校との統合を踏まえた整備

方針 2（有馬小学校及び有馬中学校）

- 施設整備にあたって直面している課題
 - ①児童数・生徒数の減少
 - ②学校施設の統廃合
 - ③学校施設の老朽化及び隣接敷地の有効活用
- 短期計画における施設整備等の方向性
 - ①有馬小学校を施設一体型小中一貫校として統合
 - ②義務教育学校として、9年間の学びのカリキュラムを構築し、学校運営をより柔軟に対応

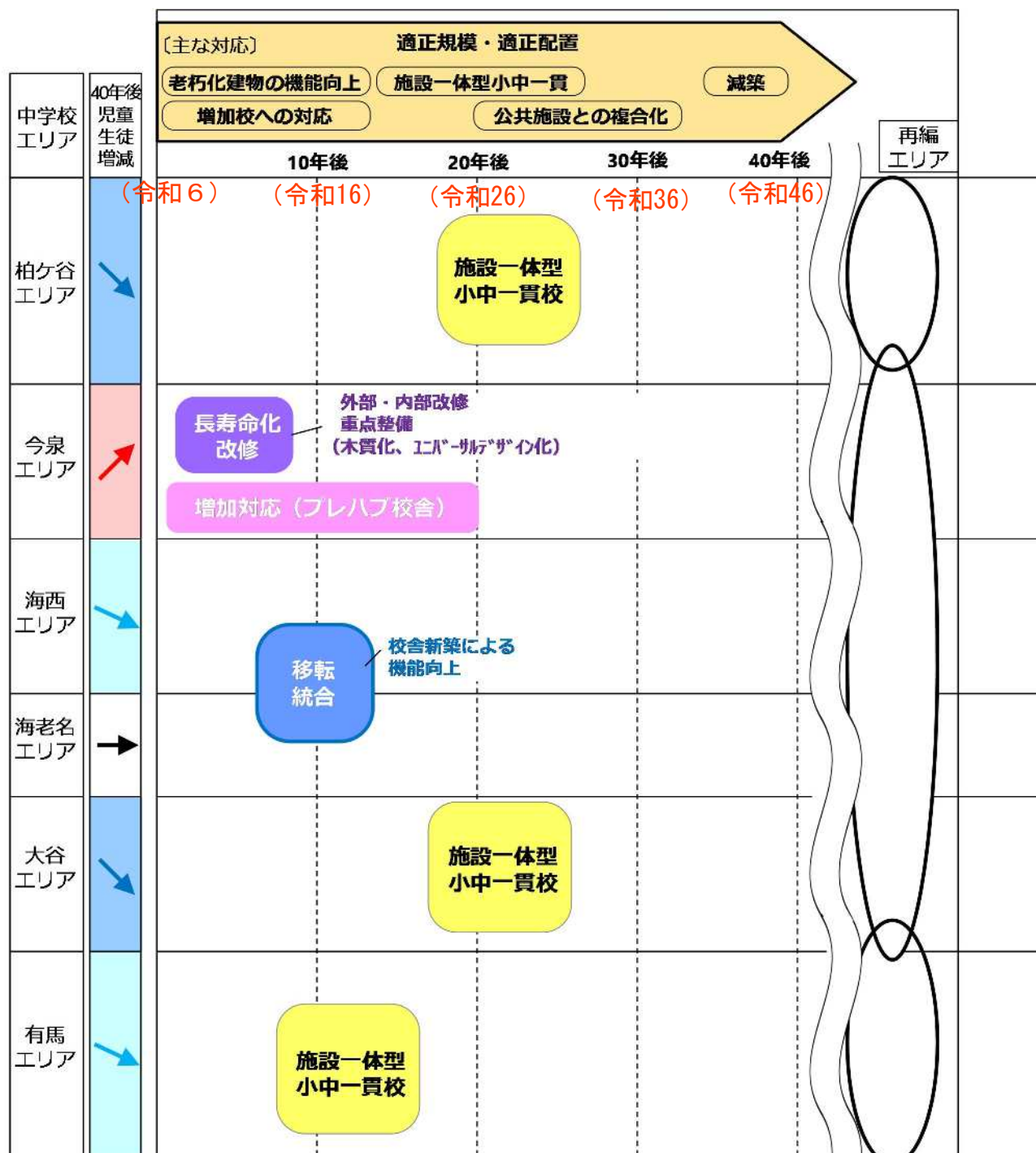
方針 3（今泉小学校及び今泉中学校）

- 施設整備にあたって直面している課題
 - ①児童数・生徒数の増加
 - ②学校施設の長寿命化
- 学校周辺地域
海老名駅西口地区の開発が継続
- 短期計画における施設整備等の方向性
 - ①軽量鉄骨造の校舎を増築し、児童・生徒増加対応等を中心に教室数を確保
 - ②学区再編を検討
- 将来に向けて
今泉小学校及び今泉中学校は、施設の長寿命化に伴う既存校舎の全般的な大規模改修による施設整備を並行して施工

（３）学校施設再整備方針

学校施設再整備の方針を、６つの中学校ごとに各エリアの今後４０年における変化に応じた学校施設の環境向上、児童生徒数の増減への対応等を考慮しながら、「（１）持続可能な計画に向けて」の５項目と、「（２）夢のある計画に向けて」の７項目から整理しました。

なお、本計画の進捗状況や社会的要請、ニーズの変化に応じて適宜フォローアップを行い、その結果を踏まえ、概ね５年ごとに見直しを行います。



- ※ 各校とともに近隣公共施設との連携を図り、地域との共存を目指します。
- ※ 小中連携に加え、幼稚園・保育所との連携も図った運営を進めます。
- ※ 短期的な教室不足への対応や施設の再編にあたっては学区を柔軟に設定し、隣接する学校に通学する制度とします。
- ※ 移転統合については、市役所周辺などを候補地として検討します。
- ※ 他市町村との連携を進め、既存の枠組みにとらわれない学校運営を検討します。

